

## (1) 保存地区の概要

地区名	桜川市真壁
種別	在郷町
面積	約17.6ヘクタール
選定年月日	平成22年6月29日
特徴	<p>桜川市真壁伝統的建造物群保存地区は、筑波連山の麓に位置し、戦国期に築かれた真壁城の城下町を起源とし、廃城後の江戸時代に設置された笠間藩の陣屋を中心に完成された町割りが高く残る。</p> <p>江戸時代末期から昭和初期までに建築された見世蔵や木造店舗等の多種多様な伝統的建造物が存在する町並みを筑波連山の山並みがより一層引き立てている。</p>
選定による効果	<p>当地区では、登録有形文化財制度を活用し、平成11年から17年にかけて104棟の建造物を文化財として登録、平成21年に桜川市歴史的風致維持向上計画が認定され、平成22年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。</p> <p>伝統的な町並みを活かしながら住民有志により始められた「真壁のひなまつり」がきっかけとなり、選定によって複数の民間まちづくり団体が設立され新たな活動が行われることで、来訪者の増加に繋がった。平成23年には東日本大震災により甚大な被害を受けたが、伝統的建造物群保存地区制度や街なみ環境整備事業を活用し、当地区だけでなく地区周辺の登録有形文化財も含めて殆どの歴史的建造物を残すことができた。</p>

## (2) 保存地区のあゆみ

平成11年度(1999)	登録有形文化財制度の活用を開始
平成15年度(2003)	住民有志が「真壁のひなまつり」を開始
平成15年度(2003)	真壁地区を中心に伝統的建造物群保存対策調査を実施(～17年度)
平成16年度(2004)	都市再生整備計画事業として、来訪者駐車場の整備、電線地中化、登録文化財の管理運営実験などを実施(～20年度)
平成20年度(2008)	「桜川市歴史的風致維持向上計画」認定
平成22年度(2010)	『重要伝統的建造物群保存地区』選定
平成22年度(2010)	旧真壁郵便局を公有化し、耐震診断を実施、保存活用計画を策定
平成22年度(2010)	東日本大震災により伝統的建造物の大半が被災、災害復旧事業に着手
平成23年度(2011)	公開活用事業により旧真壁郵便局をまちづくり活動の拠点として整備(～24年度)
平成29年度(2017)	全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会を開催
令和元年度(2019)	災害復旧事業が完了
令和2年度(2020)	「桜川市歴史的風致維持向上計画(第2期)」認定

## (3) 保存地区の保存と整備

### ●主な事業

平成22年度	重伝建地区案内板2基、表示板1基設置 修景事業1件
平成23年度	旧真壁郵便局整備～24年度(公開活用事業)
平成23年度	災害復旧事業 2件(竣工)
平成24年度	災害復旧事業 12件(竣工)
平成25年度	災害復旧事業 15件(竣工) 修景事業1件
平成26年度	災害復旧事業 23件(竣工) 修景事業1件
平成27年度	災害復旧事業 8件(竣工) 修景事業3件
平成28年度	災害復旧事業 12件(竣工)
平成29年度	災害復旧事業 11件(竣工)
平成30年度	災害復旧事業 11件(竣工)
令和元年度	災害復旧事業 5件(竣工)



## (4) 保存地区の活用とまちづくり

### その1 観光客の増加とまちづくり

登録有形文化財の数が増えると徐々に観光客が増加

住民有志が来訪者へのお茶入れ等、おもてなしをはじめる

歴史的建造物を説明する案内ボランティアの育成をはじめる

住民有志が真壁のひなまつりを開始、観光客が増大

地区内の空地を公有化し観光駐車場の整備を実施

中心部の公民館を地区景観に合わせた真壁伝承館に建て替え、資料館を併設して町並みの情報拠点として整備

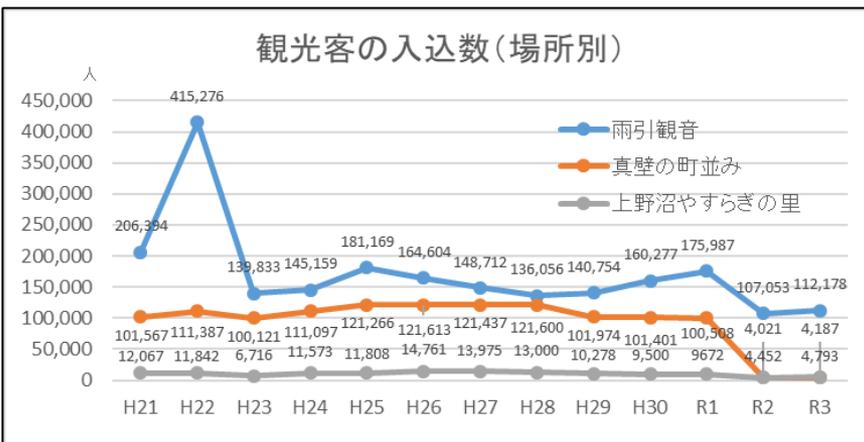
重要伝統的建造物群保存地区選定により、伝統的な町並みを紹介する書籍やテレビ番組への登場回数が増加

地区中心部の旧真壁郵便局を公有化して観光拠点に整備

東日本大震災後、被災して空家となった登録有形文化財「高久家住宅」を公有化し、まちづくり活動の場として保存整備を実施



高久家住宅の整備・公開



整備した旧真壁郵便局



観光駐車場の整備



景観阻害建物の撤去と真壁伝承館の整備



## その2 周囲への波及効果

伝統的建造物群保存地区周辺にも登録有形文化財が多数分布  
歴まち計画の重点地区は、登録有形文化財を全て包含するよう  
に設定

「真壁のひなまつり」は、地区周辺の登録有形文化財はもとより  
一般の店舗から住宅にまで広がり、県内を代表する行事に成長



登録有形  
文化財の  
修理



所有者が映画等の撮影を行う  
ための撮影所として活用



雑祭り行事で賑わいを創出



震災の翌年にも多くの観光客

## (5) 住民等の取組

町並みが注目されるようになると、空家になっている伝統的な建  
造物などを利用して休憩所を設け、お茶やトイレの提供を開始

来訪者へのおもてなしとして店舗や住宅に雛人形を飾って建物  
を公開する「真壁のひなまつり」を開始

来訪者を意識した花飾りなど環境美化活動が活発化

様々な活動を行う住民団体が次々と結成され、まちづくり活動が  
活発化、平成23年には様々な住民団体の総体として「真壁 伝  
統ともてなしのまちづくり」が「サントリー地域文化賞」を受賞



住民が雛人形を展示、公開



ボランティアによる街並み案内



住民総体でのまちづくり活動